

インターバンクの声（2014年10月6日）

先週、ドル円はようやく心理的な節目でもあった110円台まで上昇した。その後は108円近辺まで反落する場面もあったものの、3日（金）に発表された米国雇用統計が堅調であったこともあり、109円台後半で同日のニューヨーク市場を終えている。急速に進む円安ドル高について、国内の当局者から行き過ぎた円安の負の側面を指摘する声も挙がっているものの、相場の形勢を覆すまでには至っていない。

さて、今週は地区連銀総裁の講演が連日開催されるが、現在のドル高トレンドを大きく転換させるような経済指標の発表は予定されていない。ただ、8日（水）に発表されるFOMC議事録ではFedの現在の立ち位置を確認しておく必要があるだろう。また、今週は香港の民主化デモといった不安材料を抱えるなか、中国が大型連休から戻ってくる。香港株は3日こそ割安感から反発したものの、先週は大きく下落しており、今週は中国株の動きにも注意が必要かも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。